

慰安婦証言裏付けせず

河野談話 石原元副長官が答弁



衆院予算委で答弁する石原信雄元官房副長官

石原信雄元官房副長官は20日の衆院予算委

員会で、従軍慰安婦問題をめぐる旧日本軍の関与と強制性を認めた1993年の河野洋平官房長官談話について、元慰安婦の証言に基づいて作成し、裏付け調査をしなかったと明らかにした。「事実関係の裏付け調査は行われていない。裏付けを取れるような雰囲気ではなかった」と述べ

た。石原氏は当時、首相官邸の事務方トップとして省庁との調整を担当。予算委には野党の求めで参考人として出席し、調査の経緯を説明した。日本政府や米国での調査では、強制的に従事させたことを示す「客観的データは集まらなかった」と明言。韓国政府の要請を受けて元慰安婦とされた16人のヒアリングを実施

したところ、強制性を訴える証言があり、最終的に「否定できない」として認めたと言った。

談話の作成過程で韓国政府と表現を調整したかどうかは「意見の擦り合わせは当然行ったと推定されるが、自身はタッチしていないので確認できない」とした。

談話作成の目的について、「過去の問題を決着させ、日韓両国が未来志向で進むためだった」と強調。問題が再燃している現状を「当時の日本政府の善意が生かされておらず、非常に残念だ」と語った。日本維新の会の山田宏氏への答弁。